

## 【資料】西宮市学校施設長寿命化計画の進捗と経過

### はじめに

本市の学校施設の保全に関しては、経年による劣化が進行してから最小限の改修を行うものがほとんどであり、施設全体に老朽化が進行していることから、平成31年2月に「西宮市学校施設長寿命化計画（以下「計画」という。）」を策定しました。現在、計画に基づき、施設の良好な状態を維持することで、子供たちの安全・安心を確保しつつ、使用年数を延長する「施設の長寿命化」に取り組んでおります。

計画策定から4年経過した現在において、想定よりも改修内容が増えていることや外壁アスベスト除去等の必要経費の増加、加えて、昨今の人件費、資材の高騰や建設業の働き方改革（週休二日制の導入等）などの要因により、施設整備に係る経費が増加していることが大きな課題となっております。

一方、児童生徒等の安全性の確保はもとより、インクルーシブ教育を推進するためのバリアフリー化の加速、個別最適な学びと協働的な学びを実現する教育環境の整備、小学校における35人学級（少人数学級化）への対応、防災機能の強化、環境に配慮した施設整備など、学校施設に求められる水準が高まっていることから、近年の整備需要も盛り込みながら計画を更新していく必要があると考えています。

### 1 学校施設の長寿命化計画策定の背景・目的など

政府の「インフラ長寿命化基本計画」（平成25年11月）に基づき、文部科学省が所管する施設の長寿命化に向けた各設置者における取組を推進するため、文部科学省としての行動計画を平成27年3月に策定しました。令和3年度に、これまでの取組のフォローアップや長寿命化に向けた政府全体の方針等を踏まえて、今後5年間における更なる長寿命化対策の取組を推進するため、見直しを行い改定されたところです。

一方、西宮市においては平成31年2月に計画を策定しました。計画期間は令和40年度までの40年間となっており、財政状況の動向や国の補助制度の変更、児童・生徒数の推移といった教育環境を取り巻く変化に柔軟に対応するため、上位計画である西宮市総合計画と同様、5年毎に計画の見直しを行います。

### 2 学校施設を取り巻く状況

平成30年9月の西宮市の将来人口推計では、令和2年度の総人口は488,486人、年少人口は65,672人でしたが、実際の総人口は485,587人、年少人口は64,958人でした。

平成30年度前期西宮市立小・中学校児童生徒数の推計では、令和5年度は在籍児童25,970人、生徒11,087人、合計37,057人と見込んでいましたが、実際は在籍児童25,138

人、生徒 10,631 人、合計 35,769 人でした。また、令和 4 年度後期西宮市立小・中学校児童生徒数の推計では、令和 10 年度は在籍児童 22,457 人、生徒 10,390 人、合計 32,847 人を見込んでいます。

計画策定後に高須西幼稚園、小松幼稚園、名塩幼稚園、用海幼稚園、瓦木幼稚園が休園となり、市内の幼稚園は 13 園になりました。児童生徒数の総数も減少しており、転用可能な教室が増えている学校においては、引き続き教室の有効活用等を検討する必要があります。また、令和 2 年 4 月に西宮浜小学校と西宮浜中学校が統合され、総合教育センター附属西宮浜義務教育学校が開校しました。

一方で児童生徒数が増加している学校もあり、計画策定後に 2 小学校 1 中学校で仮設校舎を設置しています。

### 3 学校施設の目指すべき姿

#### ①安全・安心な学校施設

誰もが安全に、安心して利用できる学校を目指すため、防災機能を充実させる施設整備として、令和 2 年度に中学校の体育館に空調を整備しました。また、令和 4 年度から 7 年度にかけて小学校の体育館にも空調を整備する予定です。

また、天井や外壁の剥落を未然に防ぐため、長寿命化改修工事などとは別に、令和 5 年度より剥落などの可能性が高い学校施設に対して調査も兼ねた打診、補修工事を実施しています。

#### ②教育環境の向上

多様な教育活動や学習形態に対応した施設整備や多目的トイレやバリアフリーに配慮した整備が求められていますが、長寿命化改修では対応できないケースが多く、課題となっています。

トイレの洋式化について、児童生徒や保護者からの要望が強いことから長寿命化改修工事とは別に実施しています。

#### ③計画的・効率的な学校施設整備と運営

計画に従って、長寿命化改修工事などを実施することにより、従来の部位改修からできるだけ部位をまとめた改修を実施しています。

他の公共施設との複合化については、校舎内に留守家庭児童育成センターなどを整備するに留まっています。適正規模・適正配置については、幼稚園では進んでいますが、小学校中学校では今後、検討を進める必要があると考えています。

### 4 学校施設の課題と施設整備の基本方針

計画に示されていた課題である「多額の整備費用と予算の集中」と「劣化の進行」につ

いては計画時の想定を上回っている点もあるため、より効果的・効率的な対応が必要となっています。学習指導要領の改訂や学習形態の変化、インクルーシブ教育システム、防災機能の充実などの「教育を取り巻く変化への対応」については、市民や保護者からの要求の水準が高まっており、長寿命化改修では対応できないケースもあることが課題となっています。「転用可能教室等の増加」については、引き続き個別に対応する必要があります。

これらの課題に対して、計画に示された二つの基本方針「施設の長寿命化と予防保全」と「必要な機能の整備と適正化」について、改めて検討を進める必要があると考えています。

## 5 基本方針等を踏まえた施設整備の考え方

計画では基本方針等を踏まえ、建物の耐用年数を原則80年、改修の標準周期を築25年目と築50年目としておりますが、基本方針と同様に改めての検討が必要と考えています。

なお、これまで長寿命化改修工事を進めるなかで、設計時にあらためてコンクリート圧縮強度の調査などを行っておりますが、計画で示している判断基準である $13.5\text{N}/\text{mm}^2$ を下回るなど長寿命化改修工事に適さない学校施設はありませんでした。

築後25年目に実施する機能回復のための大規模改修工事と築後50年目に実施する機能回復に加え、耐久性の向上、教育環境の改善を行う長寿命化改修工事について、工事内容については予定通り実施しておりますが、スケジュールとしては新型コロナによる影響により全体として1～2年遅れている状況です。

改築においては工事内容、スケジュールともに概ね予定通りに進捗しています。

## 6 長寿命化のコスト見通し、長寿命化の効果

計画策定時の想定よりも改修すべき内容が多いことや外壁アスベスト除去等の必要経費の増加、加えて、昨今の人件費、資材の高騰や建設業の働き方改革（週休二日制の導入等）などの要因により、施設整備に係る経費が増加していることなどから、改築・改修コストシミュレーションについては改めて見直す必要があると考えています。長寿命化改修工事においては、想定した経費よりも約20%増となっているケースもありました。

また、計画では過去10年間の改築が築50～60年で行っているものが多いため、従来型の試算を築50年改築として算出しました。過去10年の改築は、児童生徒数の急増による教室不足や仮設校舎設置のための運動場面積の減少などに起因した教育環境の悪化を改善するために実施したため、比較的建築年数の浅い校舎を改築してきました。今後は、改築する必要がある校舎が多数あるため、前提条件の見直しも必要と考えています。

## 7 第5次西宮市総合計画期間中の事業計画

計画策定後の学校施設の改築について、着手していた香櫨園小学校、春風小学校、安井小学校、西宮支援学校については予定通り完成し、現在、瓦木中学校の改築工事を実施しています。また、改築を検討していた大社中学校においては、現在、基本構想・基本計画の策定に着手しています。大社中学校以降の改築に関する計画は、具体的には公表していません。

長寿命化改修工事については、これまで高木小学校、甲東小学校、生瀬小学校の3校で工事が完了しました。現在、甲陽園小学校と段上小学校で工事を実施し、令和5年度中に甲武中、瓦木小、今津小、鳴尾東小で工事に着手する予定です。コストの上昇だけでなく人的な対応も課題となっています。

なお、計画策定後、国の補助制度の変更がありました。また、令和3年4月に小学校、中学校、義務教育学校、特別支援学校を都市計画学校として位置づけ、改築や長寿命化改修を実施した際に、都市計画税を充当できるようになりました。

## 8 長寿命化計画の継続的運用方針

今後、5年毎に適切な見直しを行います。なお、今回の見直しは、大社中学校以降の改築計画などを決定するなど大幅な見直しになると考えており、計画の方向性を令和5年度の3月に公表、見直した計画の公表は令和6年度を予定しています。

以 上